

教え子を再び戦場に送るな

2面・「全国教育のついで」プレ集会



第412号

2016年

6月22日

発行所
静岡県高等学校障害児学校教職員組合
静岡市葵区駿府町1-12
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyousei.jp/
e-Mail info@s-koukyousei.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています



4万人が国会を包囲

—6.5総がかり行動—

6月5日「明日を決めるのは私たち！政治を変えよう」を合い言葉に「6.5全国総がかり大行動」が全国各地でおこなわれました。国会・霞が関でおこなわれた行動には、国会正門前、日比谷公園前、農林水産省前の3カ所にステージが設置され、4万人を超える参加者が国会を包囲しました。

選挙に行こう

各ステージには、野党の代表や各界、各分野の著名人が次々にスピーチに立ちました。安本法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合の山口二郎さん(法政大学教授)は「参議院選挙の争点は憲法。32の一人区で野党統一が決まったのはみなさんの力、参議院選まで1ヶ月、「選挙に行こう」

新しい政治の分岐点

日比谷公園前ステージでは市民連合の佐藤孝さんがあいさつ、昨年9月19日の怒りと憤りを忘れていないとして「市民の力は大きく広がり、今新しい政治の分岐点にいます。日本を戦争する国にしない、憲法改正を許さない、そういうたたかいをしていきましょう」と呼びかけました。

右翼の妨害のなか

右翼の街宣車が高音響で妨害するなか、参加者は、「安倍退陣で未来を切り開こう」「政治を変えろ、市民が変えろ」の声を上げ、必ず勝利しよう」と力をこめて訴えました。

教育予算増、教育条件改善を求めて

高校懇談会が省庁・団体要請

5月27日、高教組も加盟する「全国高校組織懇談会」は、教育予算増額、少人数学級実現、高校授業料無償化復活などを求め、各省庁、全国知事会、PTA連合会、経済団体などに要請、申し入れ行動を行いました。静岡高教組は、PTA連合会と防衛省への申し入れに参加し、要請書を提出しました。

PTA連合会では、事務局長代理の内田志づきさんが対応し、「要望には共感できます。連合会としても文科省に要請しています」と述べ、好意を護る崇高な使命を持つ



防衛省内で要請書を渡す

賃金手帳16年度版 給与制度、諸手当、給料表などわかりやすく解説



頒価 100円
分会員か高教組本部まで

介護休業手当金の支給割合が増加します

3月29日に雇用保険法等の一部を改正する法律が成立しました。付則で地方公務員等共済組合法の一部を改正することが盛り込まれたことにより、16年8月1日から、介護休業手当金の支給割合が従来の40%から67%に引き上げられます。

核兵器のない世界をめざして、16平和行進

今年も原水禁止平和行進は5月6日東京夢の島を出発し、静岡では5月19日に神奈川から引き継ぎ、5月31日まで13日間行進して行われました。高教組も、分会・本部から参加、OBも多数行進しました。

心理学者の研究によれば、年収が約900万円までは幸福感が上がり、それ以上は年収が増えなくても幸福度は上がらない。ところが、米国の心理学者の研究によれば、年収が約900万円までは幸福感が上がり、それ以上は年収が増えなくても幸福度は上がらない。ところが、米国の心理学者の研究によれば、年収が約900万円までは幸福感が上がり、それ以上は年収が増えなくても幸福度は上がらない。

給料が上がれば上がるほど幸せになる。とかく、そう思う。ところが、米国の心理学者の研究によれば、年収が約900万円までは幸福感が上がり、それ以上は年収が増えなくても幸福度は上がらない。ところが、米国の心理学者の研究によれば、年収が約900万円までは幸福感が上がり、それ以上は年収が増えなくても幸福度は上がらない。

給料が上がれば上がるほど幸せになる。とかく、そう思う。ところが、米国の心理学者の研究によれば、年収が約900万円までは幸福感が上がり、それ以上は年収が増えなくても幸福度は上がらない。ところが、米国の心理学者の研究によれば、年収が約900万円までは幸福感が上がり、それ以上は年収が増えなくても幸福度は上がらない。

静岡県母親大会 島田工業高校に 学びあいつながりあう熱気



6月19日、島田工業高校で、第54回静岡県母親大会がおこなわれました。参加者は1600人以上。助言者や要員も含め、高教組組合員も30人が参加しました。分科会、「18歳選挙権、若者たちと考えよう」には高校生も参加。「わかものまち静岡」を主宰する大学生、土肥潤也さんが活動を報告し、グループになって話し合いました。



現在の社会を100点満点で評定し、良い点・悪い点について具体的に書き出し、気になっていることを話し合うなかで「社会って意外と身近じゃん」と体感。「子ども・若者を参加させる」と。今を生きた者として大人と対等な市民として接すること。子ども若者にしかない力を信じてることが大切。若者が主体性を発揮して政

ている現実。「必要なのは鋭利なハサミではなく、心と心をつなげる針と糸だ」という言葉が多く参加者の胸に響きました。



記念講演
池田恵理子さん

午後5時の全体会では、高

校生の晴矢(ハレヤ)さんが見事な津軽三味線を披露。カンテアーモ常業の歌声も感動的でした。

池田さんは元NHKディレクター。「日本を戦争する国にさせないために歴史の真実とマスコミの責任」と題し、「慰安婦問題」に象徴的に表れる加害の歴史の否定とジャーナリズムの墮落を指摘。今や報道自由度が72位に低下し、マスメディアに対して、ひどいところは批判し、よいところは褒めるなど、「できることを思いつくまに活動しよう」と呼びかけました。

分科会、記念講演など、次回でさらに詳しく紹介します。

主張

6月11日に藤枝で高校生を対象に「政党的政策説明会」を行なおうと各政党の藤枝支部と藤枝の三校の校長に次のように申し入れました。

学校で「政党的政策説明会」を

選挙権年齢が18歳に引き下げられ、高校生や若者たちを「選挙権をもった主権者」としてどう迎え入れるかが大きな課題となっています。若者たちの声や力は、地域づくりやよりよい生活環境づくりにはなくてはならないものです。しかし若者の中には、「政治のことはむずかしい」「自分たちの生活と結びついて

まずは、「自分の生活と無関係ではなく身近なもの」「有権者として投票に行くことは大切な権利」であり、「地域や社会に対する責任を負うこと」であることは、熱意をもって伝え、仲間として迎え入れたらいいです。そこで、下記のように

「各政党の政策説明会」を企画したので、ご協力ご出席、高校生への参加よびかけをお願いします。

各党の説明時間も統一し、質問にもすべての政党に回答してもらうよう「公平」には配慮し、藤

市の選挙管理委員会にも参加とコメントをお願いします。受付や司会も高校生が担当し、各校の「主権者教育担当者」も主権者側に加わってもらって、と構想していました。

しかし、準備開始が遅かったためあつて全政

党の参加はかまいませんでした。全校生徒へのチラシ配布は見送り、当日は「政党的政策比較研究会」として開催しました。民進党と共産党の議員が来てくださり「高校生にぜひ話したい。若い人たちに政治を身近

なものと感じてほしい」とわかりやすく政策を説明してくれました。残念ながら高校生は残っていませんでしたが、主権者教育担当の先生など3人が参加し、質問や学校の様子の情報交換などが活発におこなわれました。

失敗ではありませんが、手たえは十分にあります。高校には受け入れられる余地も意欲もあり、必要性を強く感じていること。高校生にも知りたいという意欲があり、このような場を求めていること。選挙管理委員会もとても協力的で、若者たちの意見を政治に生かすために投票してほしいと願っていること。何より各政党が若者たちの意見を聞きたいと強く思っていることが確認できました。

もしも早くから日程調整して、高校生が主催者になりマスコミもまきこみ、次はうまくやるぞ。各学校でこんな取組が行われる日を夢見るなあ。(文責 橋本 純)

6月7日に藤枝特別支援学校で「全教共済説明会・共済加入者のつどい」を行ないました。参加者は共済未加入者も含めて15人。志保地区では、三校目の開催になりました。

全教共済の専務理事の今谷賢二氏が、わかりやすく説明。掛け金は安いけれど、教職員の命と暮らしと身分を守ることに徹する全教共済。他の

「高教組奨学金」存続のために基金へのカンパをお願いします。1977年度から始まった「主任手当」。高教組は、「その予算があるのならば、教職員増高増設、学級の生徒定数削減、父母負担軽減などにまわすべきだ」と反対するとともに、主任手当拠出金を原資に「奨学金支給事業」を始めました。

「全教共済説明会・加入者のつどい」助け合っている仲間だから、時にはあつまろう

つどいあい促進費を活用しての楽しいケーキと飲み物も魅力です。お互い助け合っている仲間、職場のこと、教育のことなどゆつたり語り合う場を持ちましょう。

終了後も熱心に質問する参加者



終了後も熱心に質問する参加者